ゴキブリ　充電器　本　テスト

音無　無音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ゴキブリ　充電器　本　テスト

【Ｎコード】
Ｎ４４２２Ｖ

【作者名】
音無　無音

【あらすじ】
すとむみずみ様より頂いた単語で短編を描かせて頂きました。
単語はタイトルのとおりです。

（前書き）

期待はしないでください。

「ただいま」
無愛想に俺は帰宅を伝える挨拶をした。　今日のホームルームで担任が、言ってきた。

『明日テストするからなー』

地獄のような響き。　しかも苦手な科目だって。有り得ねえ。
「きゃぁ？！」
台所から姉貴の声。　なんかいたんかな？

声の元へ俺は向かった。
「ちょっと、大地ぃぃぃ！」
すがるように姉貴はやってくる。
「冷蔵庫の近くに黒く光るアレがいたのお」
「はぁ？ったく」
俺はそこらへんにあった本をつかんだ。

一分もない内に俺とヤツ・・・・・Gとの戦いは終わった。
「ちょ、ちょっとお〜〜！それ図書館で借りたものなんだよ！？何粗末に扱ってんの！」
退治した俺に向かって怒ってくる姉貴。　・・・・・まあ俺が悪いんだろうが。
彼女はその、ヤツの痕跡が付いている本を手に取り今にも泣きそうな顔になる。
・・・・・・・せ、せめて綺麗にしてやろう。
この年にもなって泣かれては困る。
「ありがと〜。アイスかったから食べてね」

機嫌直るの早いな。
「ところでさっき電話したんだけど、出なかったでしょ？」
電源切ってたの？と問う姉。
バイブレーションも起きなかったし、音も出なかった。
俺はバッグの中に手を突っ込み、携帯を取り出した。
「・・・・・・・すまん、充電切れてた」
姉は嫌な顔をしていたが「ん」と俺に充電器を差し出した――

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4422v/

ゴキブリ　充電器　本　テスト

2011年10月3日11時15分発行